

芸 術 文 化

第1節 芸術文化

1. 概 要

本年度は、芸術文化活動の充実および文化施設の整備を努力目標として、各種の事業を実施した。

- (1) 芸術活動発表の場の拡大につとめる。
後記のとおり、県美展、文学賞、芸術祭および各種コンクール等、各分野とも充実され大きな成果をあげた。
- (2) 指導者の養成につとめる。
音楽、美術部門の各種研修会、青少年芸術文化リーダーのつどい等を開催し、その資質の向上につとめた。
- (3) 文化普及につとめる。
巡回合唱公演、巡回絵画展および青少年芸術劇場等を実施し、優れた芸術文化にふれる機会を拡大した。
- (4) 演劇、文芸、美術、合唱のふるさとを各1地区指定した。
また、国庫補助とあわせて、市民文化祭の助成（文化会館自主事業促進）および近代日本版画展の開催等、地域文化活動の振興につとめた。
- (5) 文化団体の育成につとめる。
県文連主催の東北美術展および県芸文協主催の文芸誌発行等に援助するとともに、各団体が行う文化行事について共催または、後援し、活動の活性化を図った。
- (6) 文化施設の整備につとめる。
県文化センター前庭舗装、美術品の収蔵等の整備を図る一方、いわき市、広域市町村圏等の地方文化施設の建設促進につとめた。
- (7) 県文化センター事業の充実につとめる。
満3年を迎えた文化センターは、その事業内容の充実につとめた。とくに、各館とも入場者が拡大され、県民の関心も高くなってきたことは大きな収穫であった。
以上、本年度の概要について記したが、本年度新規事業として実施した芸術祭参加行事への補助、第1回県川柳大会の実施、国の移動芸術祭、近代日本の版画展等は従来になく盛況であり、今後に明るい材料をのこした。しかしながら、地域ぐるみの文化活動の推進、地方文化施設の充実および市町村文化行政体制の強化など、今後の課題も少なくない。しかも秋以来のエネルギー問題は、これからの文化活動の面に、どのような影響を及ぼすか、不安な材料として次年度に持ち
- (10) 出品数

部門	招待	依頼	無鑑査	公募一般	公募青少年	計	合計	前年度作品	前年度比較増減	入選数	陳列数	備考
日本画	19	5	2	70	4	74	100	81	+19	49	75	
洋画	51	9	1	232	84	316	377	378	-1	158	219	
彫塑	22	1	1	25	22	47	71	52	+19	36	60	
工芸	13	—	1	56	1	57	71	59	+12	53	67	
書	19	13	2	371	4	375	409	390	+19	276	310	
計	124	28	7	754	115	869	1,028	960	+68	572	731	
前年度比較	119	29	8	659	145	804	960					
増減	+ 5	- 1	- 1	+ 95	- 30	+ 65	+ 68					

越された。

2. 第27回県総合美術展覧会

- (1) 趣 旨 県内および県出身者から作品を募集して展覧し、地方文化の進展と本県美術の振興をはかる。
- (2) 主 催 福島県教育委員会、福島県、福島県美術家連盟、在京福島県美術家協会、福島市教育委員会、福島市、財団法人福島県文化センター
- (3) 後 援 福島民報社、福島民友新聞社、河北新報社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ
- (4) 期 日 昭和48年6月8日～6月17日まで10日間
- (5) 会 場 福島県文化センター 福島市春日町
T E L (0245) T E L 849191～9194
- (6) 運営委員 青津清喜、阿部七郎、安部孫一、菅野忠良、佐野文夫、佐藤利三郎、斎藤正夫、斎藤芳龍、高橋良一郎、常盤大空、平井博、菱沼儀、平原春湖、山川忠義、渡辺到源
- (7) 審査員 (五十音順)
青津清喜、飯塚栖圃、植木正子、菅野忠良、佐竹富三、佐藤義重、佐藤睦郎、角田弘司、常盤大空、針谷三男、平原春湖、藤本竹亭、斑目秀雄、水田荘介、三坂耿一郎、室井東志生、村上皓南、若松光一郎、渡部憲司 (五十音順)
- (8) 幹 事 (東京)五十嵐二郎、新国孝雄、室井東志生(福島)続橋徳男、神野忠和、酒井昌之、石田一雄、熊倉忠一郎、(二本松)二瓶大三(郡山)小野寺隆(須賀川)渡辺辰吉(白河)福田利秋(会津若松)相田義男(喜多方)渡部憲司(いわき)塩田清忠(浪江)佐藤繁雄(原町)新妻徳善(相馬)福島心芳
- (9) 実行委員 阿部而立、飯塚栖圃、石田一雄、伊藤定信、伊藤伝一、伊勢忠俊、今泉清司、植木正子、大谷英輔、大杉国土、菅野忠良、熊倉忠一郎、酒井昌之、斎藤幹夫、斎藤鶴龍、佐藤一男、佐藤黄龍、鈴木一朗、樽井千秋、高野泰岳、藤田利雄、馬場祥子、藤岡丘郎、星幸雄、松本正義 (五十音順)